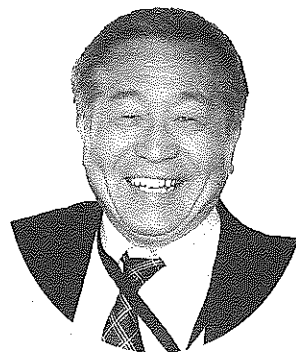


会長エッセイ

和顔愛語



認定NPO法人 地球市民の会
会長 佐藤 昭二

声なき声

「菜の花や 宴の下に ひそと在り」

今、まさに花見で賑わっております。

菜の花は昔からとても好きな私でしたが、この頃特にその感が強くなってきたようです。

物事を見る角度が違って来ているのでしょうか？

これは私が齢を重ねたことでもあるかもしれません。

主役の座を得ることなく一生懸命に咲く花に感動します。

15年程前、広島から来られたあるご婦人を、ここ幣立神宮の森を散歩がてらにご案内した時です。

裏のご神田の畦道で、ふと立ち止まりそのご婦人が急に声を上げて泣き出したのです。正に号泣です。

そこには名も知らない小さな、ちいさな真っ赤な花が数本咲いていました。

余程気を付けて見なければ見過ごしてしまうような花でした。

ご婦人はその花を見て泣かれたのです。

後になって泣かれた理由を尋ねましたところ「私は小さい時から誰かに評価されたい、目立ちたい、いつも人の上に立ちたい、という思いが強く、常に人の目を気にして今日まで来ました、しかし今日ここに来て、あの花

を見た時、誰にも見られることなく、誰にも褒められる事なく、ただ自分を一生懸命咲いて生涯を終える花を見たとき、表現のし難い感動が込み上げてきました」ということでした。

以来そのご婦人とは親戚の様にお付き合いを頂いて居ります。

自然界は常に私達に気付きを促しております。

しかし花見の宴の如く、いつの間にか私達はひそと咲いている菜の花を踏みしだいて居ります。

悲しいかな人間社会においても小さな声が私達に届かないのが現状です。

否、聞こうとしないのが現実なのかもしれません。

地球市民の会はこの声なき声を聞き、受け止めて行かなければなりません。

我々地球市民の会には、この声なき声を聞き受けることの出来る仲間が沢山います。

当初私が就任挨拶で述べさせて頂いたように「一人の100歩より100人の一歩」を実践する時が来たのです。

私達一人ひとりが功利打算を離れ、内なる自分と対自する時が来たのです。